

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 西成

学 校 名 長橋小学校

学校長名 坂 幸之介

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長橋小学校では、第6学年 36名

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本年度の平均正答率は、国語・算数・理科それぞれ全国平均・大阪市平均より10ポイント以上下回る結果となった。特に国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数では「図形」の領域に課題が見られた。国語・算数ともに無回答率は全国平均・大阪市平均よりも高くはなっているが、令和3年度の本校の無回答率と比較すると割合は低くなっている。あきらめずに問題に取り組もうとする児童が増加していることが伺える。学習内容が十分に定着できていない児童が多く見られることは大きな課題であるが、日々の授業に意欲的に取り組む児童は増えてきている。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

## 〔国語〕

特に正答率の低かったのは「知識・技能」の分野で、漢字を文の中で正しく使う問題であった。正答率は3割に届かず、さらに無回答率も高いことから、漢字に対する苦手意識が高いことがわかった。また、記述式の問題は全国的にも正答率は低い結果となっているが、本校児童の記述式問題に対する正答率は36.2ポイントと全国・大阪市平均よりも低く、無回答率も高いことから、記述式の問題に対して難しさを感じていたり苦手意識を持っていたりする児童が多いこともわかった。しかし、読書に対して前向きに取り組む児童は比較的多く見られるので、読書活動を効果的に取り入れ、漢字や文章に慣れ親しめるような手立てを講じていきたい。

## 〔算数〕

最も正答率の低かったのは図形の問題であった。中でも「正三角形をかくことができる正しいプログラムについて記述する」問題では、正答率が14.3ポイントと低く、言葉と数を使って答えを書くことが難しかったようである。記述式の問題に対する正答率は30ポイントとなっており、自分の考えを言葉で書くことに苦手意識を持つ児童が多く見られる。

一方で、数と計算領域の乗法の問題では、全国平均を上回る結果となった。毎時間、基礎・基本の定着を図るための復習の時間を取り入れている成果があらわれている。平均無解答においては、全国との差は3.1ポイントと差はあるものの、昨年度のポイントと比較すると1.3ポイント減少しており、少しずつ着実に粘り強く問題に取り組めるようになってきている。

## 〔理科〕

国語、算数と同様に記述式の正答率が22.9ポイントと低く、実験の結果を基にして自分の考えを書く問題の正答率は大きく下回る結果となった。無回答率も高いことから、問題の解釈や自分の考えを記述することへの苦手意識が伺える。

しかし、児童質問紙の「理科の勉強は好きですか」の項目では、肯定的に答える児童が83.4ポイントで全国・大阪市を上回る結果となっており、学習に意欲的に取り組む児童は多い。

質問紙調査より

「国語の学習は好き」と肯定的に回答する児童の割合は72.2%と全国より13ポイント高い。また「算数の学習は好き」と肯定的に回答する児童の割合は66.7%と全国より5.2ポイント高い。「理科の学習は好き」と肯定的に回答する児童の割合は83.4%と全国より3.7ポイント高い。

本校児童はどの学習においても意欲的であり、日常の学習に抱く満足感も高いが、学力調査の」と結果にあらわれていないことが残念である。学力の定着にむけ、後に述べるアクション

プランを継続して取り組む必要がある。また、「いじめはどんな理由があってもいけない」と最も肯定的に回答する児童の割合は91.7%と全国より7.8ポイントも高い。これまで本校が大切にしている人権教育の成果であり、今後も継続する必要がある。また「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある」と肯定的に回答する児童の割合は36.1%と全国より5.5ポイント高い。地域との関わりを児童も肌で感じており、学校としても感謝している。

学校以外の時間での学習への取り組みについて、一日あたりの学習時間で「30分より少ない時間」「全くしない」と答えた児童の割合は、47.2%とほぼ半数で、全国平均よりも30ポイント以上も高いことが調査からわかった。結果からわかるように多くの児童が宿題以外の学習にあまり取り組めていないことが課題としてあげられる。本校には様々な家庭背景を抱えた児童は多くいるが、児童が家庭で取り組みやすい学習課題を準備したり、学習者用端末を持ち帰って学習できる機会を設けたりするなどして、少しずつでも保護者の協力を得ながら家庭学習に取り組ませていきたい。

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で最も肯定的な回答をする児童が91.7%、また「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の項目で最も肯定的な回答をする児童が80.6%で、ともに全国・大阪市を大きく上回る結果であった。これからの結果から、本校で人権教育を基盤に大事にしている取組などが一つの成果となって表れた結果であると考えられる。

## 今後の取組(アクションプラン)

児童一人ひとりの学力を的確に捉え、実態に応じた学習環境を整えたり、支援を行ったりしていきながら、児童にとって『主体的・対話的で深い学び』となるように学習や取組を進めていく。教育効果を上げるために、教科学習での充実を図るとともに、人権教育も充実させる。様々な教育活動を通して自己肯定感を高め、様々な角度から達成感や満足感を味わわせることで児童の学力向上につなげていきたい。

- ・ 計算・漢字などの基礎・基本の定着を図る。
- ・ 児童の実態に応じた習熟度別学習・少人数授業を取り入れた細やかな支援を行う。
- ・ 児童の実態に応じた個別教材の作成する。
- ・ 個別の指導計画を作成する。
- ・ ICT機器を効果的に活用し、視覚・聴覚支援を充実させる。
- ・ 朝学習の時間で、よみきかせや読書・計算などを行う。
- ・ 読書ができる環境の整備。（読書活動の推進）
- ・ サポーター（学習支援）の配置。（学びサポーター・特別支援教育サポーター）
- ・ 学びの定着を図るための放課後学習に取り組む。（スマイル教室・教室での学習補填、区役所との連携）
- ・ エビデンス（各種アンケート・算数チャレンジ・多層指導モデルMIM・hyper-QUなど）に基づいた指導計画を作成する。
- ・ 地域との交流や多文化共生教育を充実させ、児童の自己肯定感の向上につなげる。
- ・ ユニバーサルデザインの授業づくりを行う。

# 児童質問紙より

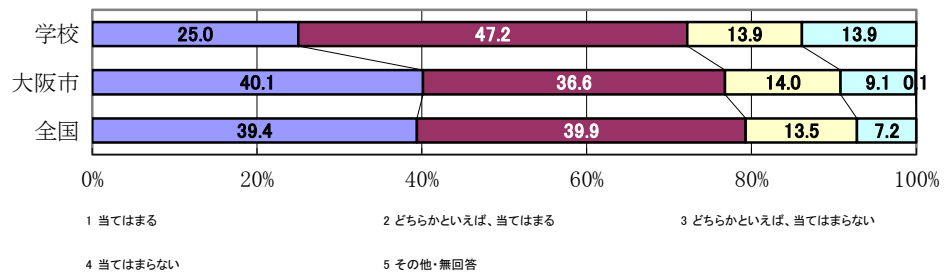
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

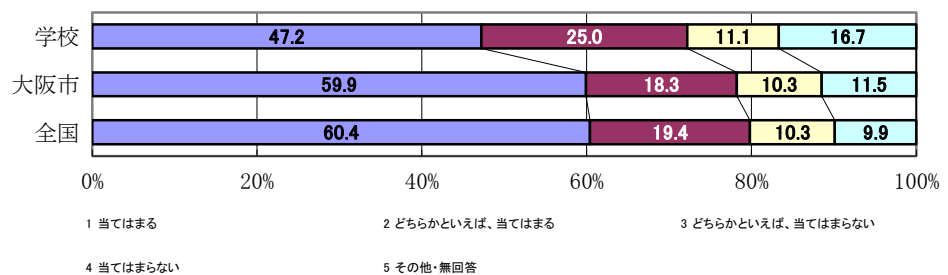
7

自分には、よいところがあると思いますか



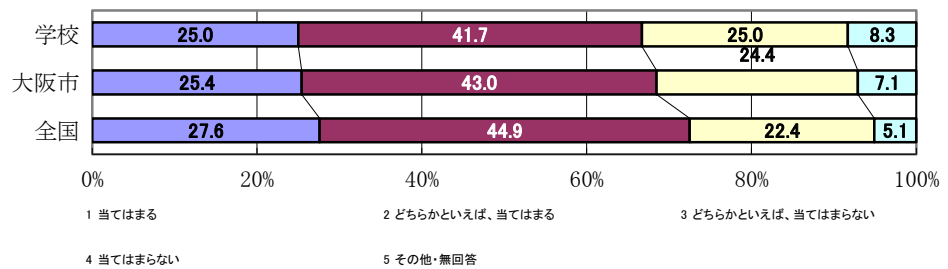
9

将来の夢や目標を持っていますか



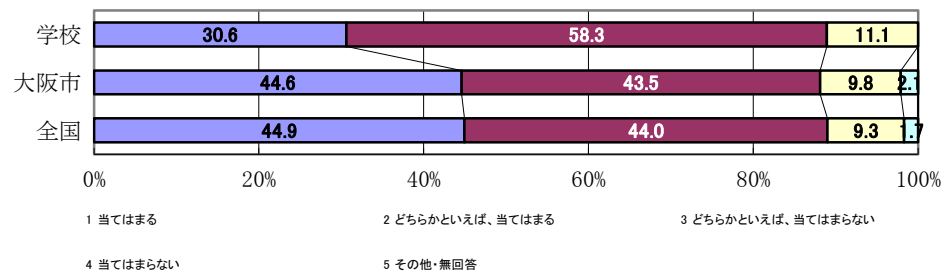
11

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



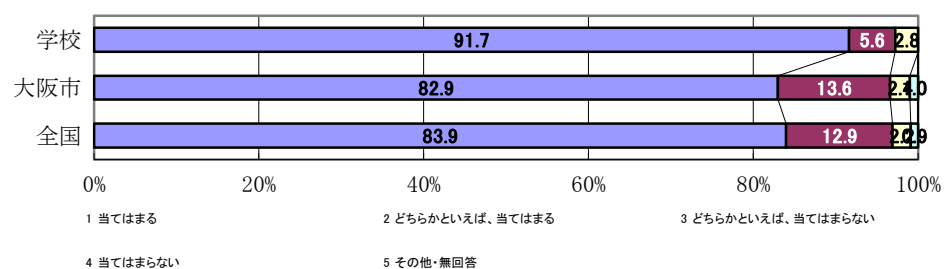
12

人が困っているときは、進んで助けていますか



13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



# 児童質問紙より

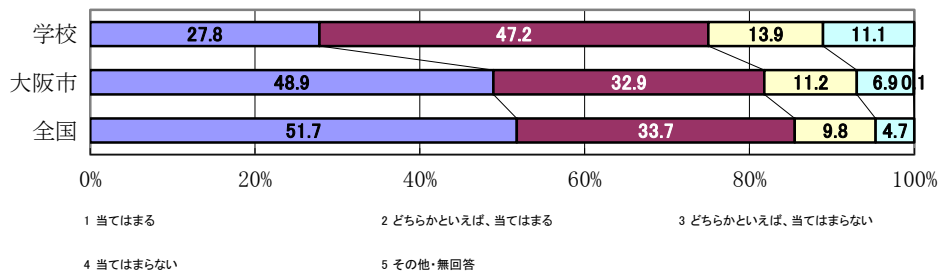
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

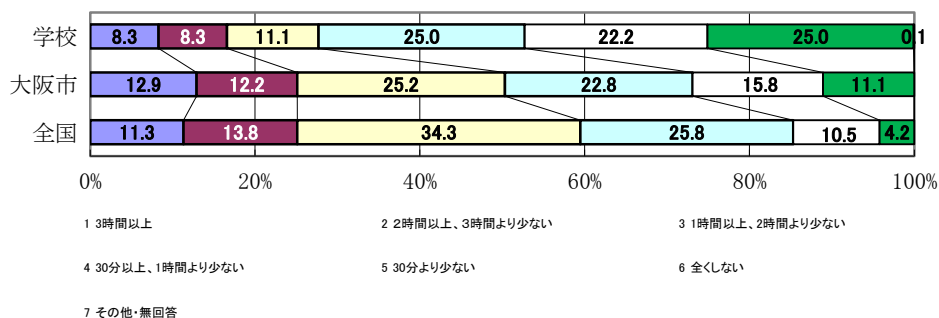
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



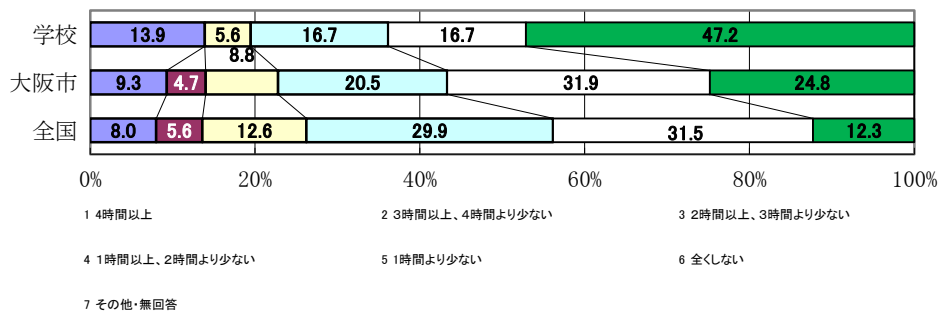
21

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



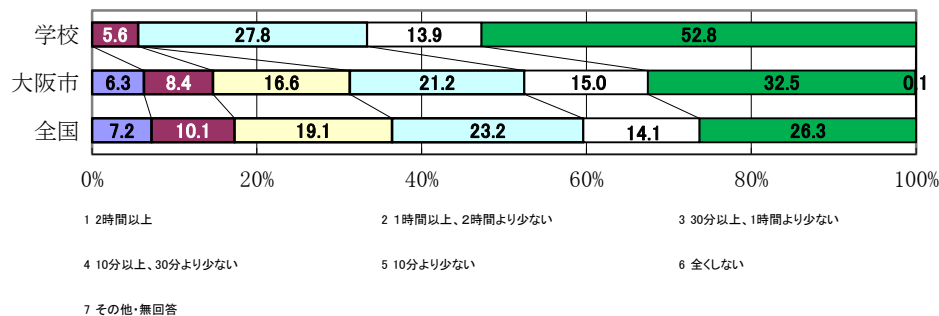
22

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



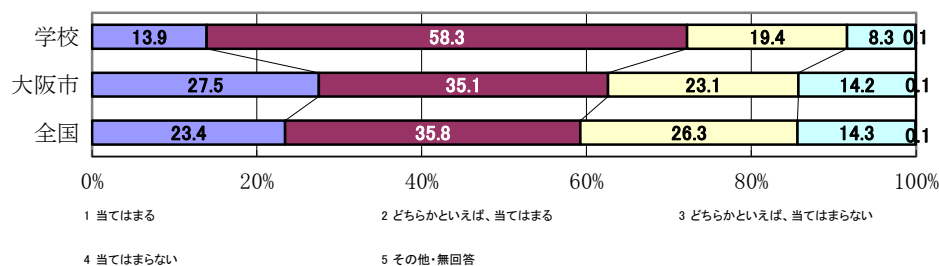
23

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



49

国語の勉強は好きですか



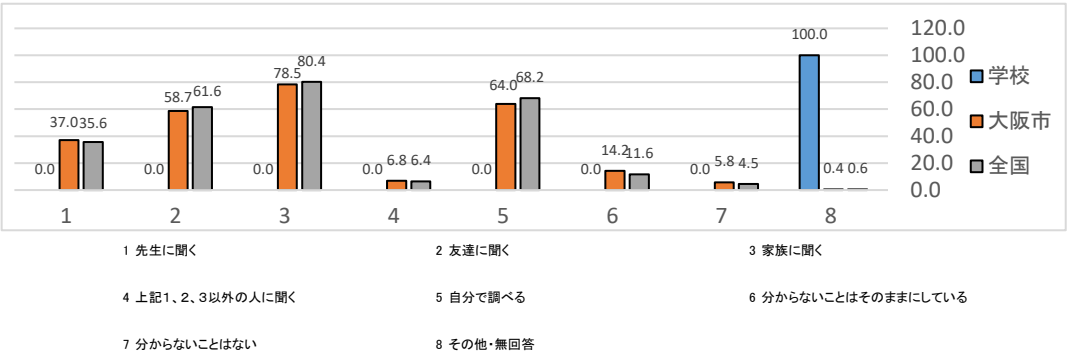
# 児童質問紙より

質問番号

質問事項

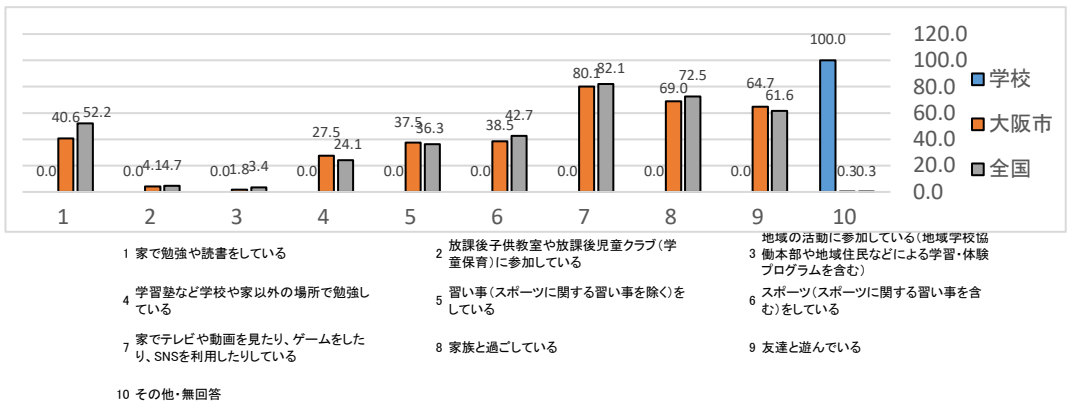
19

家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか(複数選択)



31

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)



# 学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

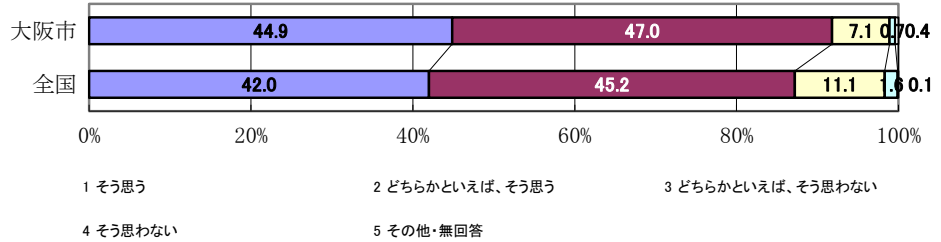
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

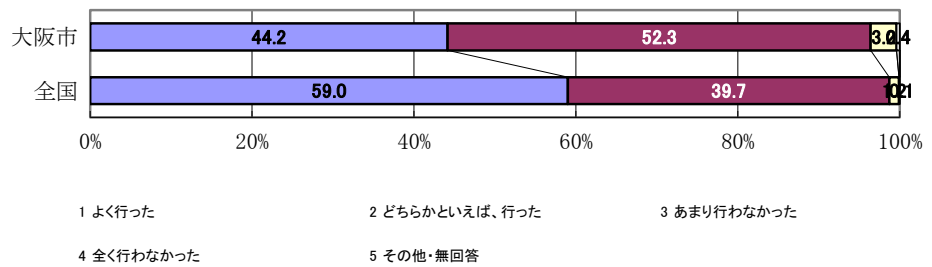
学校「そう思う」を選択



10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか

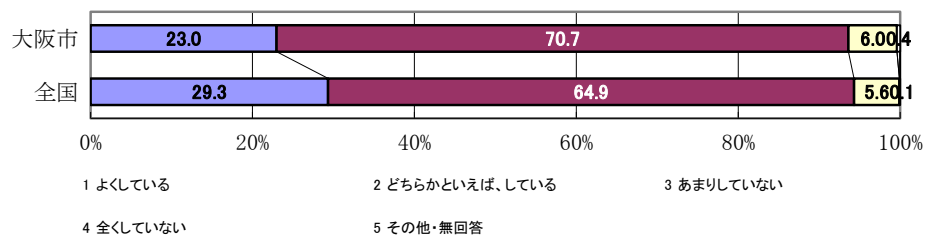
学校「よく行った」を選択



17

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

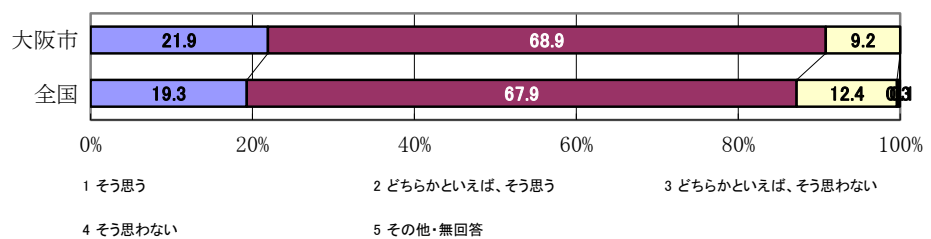
学校「よくしている」を選択



23

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



25

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校「どちらかといえば、そう思う」を選択

